

取材の途中、将棋の米長邦雄永世棋聖（中央）が阿部会長（右）を表敬訪問。左は桂正洋専務理事

行したんですが、スコットランドあたりを走っていると自転車とかりカンベントで悠々と旅している人に会いました。偶然、同じ人に何度も会ったりしましたね。彼らは休暇をとってリカンベントで旅していたんです。何というか、親近感をとても感じました。彼らは自転車とかりカンベントの楽しさを満喫していたんでしょうね。今、改めてそんなことを思い出すにつけ、日本人のライフスタイルがもっとレジャー

の分野で自転車を楽しむものになればいいなと思います。そうなれば自転車の需要構造が自ずから変わってくるはずですし」

### 新発想の導入を重視、需要構造の変革に全力投球の構え

「現在、日本の自転車業界は生産、販売の両方で閉塞感がありますが、これを打破するには需要構造を変えていくことが不可欠ですね。」

「7月に就任したばかりなので、詳しいことは分かりませんが、基本的にはそういうことだと思います。時代は変化していつていくわけですから旧態依然とした発想ではなかなか展望は開けないんじゃないでしょうか。そのためには自転車業界の1人1人が行動する、活力のある需要創造に向かって努力するというのが大事です。敗北主義になつたら駄目ですね。自転車そのものは先ほども申し上げたように時代の要請というものを受けているわけですから、努力次第で道は開けるはずですよ。」

ものづくりということに關しても日本の得意分野、技術を活かしていけばまだまだ発

展の余地は充分にあると思います。輸出ということだつて充分に可能性があるんじゃないでしょうか。過去を悔やんだり、将来を必要以上に心配したりしていてもしょうがないわけで、人生は今、現在しかないわけですから、重要なのは今をどう生きるかということです。今を精いっぱい生きるといことですよ」

「そうしたことの積み重ねの中から明日への展望も開けてくる」と。

「と思います。前向きに人生と向き合い、自分の生き方を見定め、自分の価値観に忠実に生きる。そうした中で人生を楽しむということが大事なんじゃないでしょうか。そのことを自転車の仕事にたずさわっている人達が実践し、自転車を取り入れた充実したライフスタイルを世の中の人達に提示していくという姿勢が求められていると思います」

「日本の自転車業界ももう一度、原点に立ち返る必要がありますね。」

「自転車に乗る楽しみを自ら味わい、そうしたライフスタイルを一般社会に広めていくということでしょうか。常に新たなことを提唱する勇気を持ちたいものです。また、自転車協会が9月1日から導入するBAA制度も、自転車のマイナスイメージを払拭し、プラスイメージを定着させるためのもので、自転車業界発展の基盤となるもの

です。自振協も安全対策推進事業の一環として全力投球します。定着させるまで多少の期間を要するでしょうが、是非でも成功させねばなりません」

「好きな言葉とかは。」

「私は言葉遊びが好きで、自分の名前に引っかけ『焦（あ）』せらず勉強（べんきょう）、氣長（きなが）に生（い）きて、血（ち）の湧くロマン（ろまん）の詩（うた）も忘れず』ということ言ったりするのですが……。それと、エビキュロスの言葉の『自足の最大の収穫は自由である』ですね。自由ということ大事にして生きたいものです」



●阿部毅一郎（あべ きいちろう）昭和15年1月、長崎県島原に生まれる。64歳。38年、東京大学法学部卒。同年、通商産業省入省。50年、外務省在ポーランド日本大使館一等書記官。53年、中小企業庁長官官房調査課長。56年、経済企画庁総合計画局計画官。60年、大臣官房調査統計部統計解析課長。61年、中小企業事業団総務部長。63年、札幌通商産業局長。平成元年、大臣官房付・退官。同年、西部石油顧問。同5年、同社常務取締役。同14年、上五島石油備蓄(株)専務取締役。同16年7月1日、(株)自転車産業振興協会会長に就任。